

**【全国初】環境・地域・防災をつなぐ
AI搭載新インフラ「Rebit BOX」実装に向けた実証スタート
北九州発スタートアップ企業の社会課題解決に向けた挑戦を支援！
～デモ体験取材のご案内～**

「AI活用推進都市」宣言 第8弾

報道機関 各位

北九州市は、国家戦略特区「北九州高度産業技術実証ワンストップセンター」と「東田・未来都市プロジェクト」の取組として、この度、環境・地域・防災をつなぐ AI搭載新インフラである次世代型リサイクルボックスの実装に向けた実証実験を支援することとなりました。

これまで、ペットボトルや缶はリサイクルが進められてきましたが、①異物混入 ②機器設置費用 ③住民の意欲低下 ④社会貢献度の分かりにくさ が課題となっていました。

この社会課題を解決するため、北九州市発のスタートアップ企業「株式会社リビットジャパン」が実装を目指す、資源循環を促進する次世代型リサイクルボックス「Rebit BOX」(リビットボックス)の実証実験支援をサポートします。

「Rebit BOX」は、

- ・ AIによるリサイクル適合品の自動判別
- ・ 投入時の付与ポイントや温室効果ガス削減量の自動計算
- ・ 電源と設置場所の提供のみで設置できる という特徴があります。

さらに、災害の際はモニターに避難情報を投影し、地域BWA(地方自治体に振り分けられた電波)を無償提供する仕組みにより災害発生時の新たなインフラとしての活用も検討する予定です。

下記の通り、デモンストレーションを行いますので、ぜひ取材のほどよろしくお願ひします。

デモンストレーションについて

1 日時 令和7年11月28日(金) 11:00～ ※8:40からの設置時も撮影可

2 場所 本庁舎1階勝山公園側玄関

3 内容

- (1) 実証支援について : 北九州市より説明
- (2) リビットボックスについて : 株式会社リビットジャパン社より説明
- (3) デモンストレーション(投入体験有り)
- (4) 質疑応答

実証実験の内容について

1 実証概要

実装に向け開発を行っている Rebit BOX(詳細は別紙参照)の ①AI 自動判別機能
②AI 自動計算(付与ポイント・温室効果ガス削減量)機能 ③地域 BWA との連携
④災害時の活用可能性を検証します。

- 2 実証事業者 株式会社リビットジャパン
- 3 協力事業者 一般社団法人北九州ネットワークス(地域 BWA 運用会社)
- 4 実証期間 令和7年12月1日(月) ~ 令和8年3月31日(火)
- 5 実証場所 THE OUTLETS KITAKYUSHU 他市内5か所

北九州高度産業技術実証ワンストップセンターについて

社会課題の解決や、新規ビジネスの創出につなげることを目指し、
企業・大学等の研究主体による市内での高度な産業技術(自動運転・
小型無人機・電波の3分野)の開発を推進するため、国と共同で
平成30年10月に開設したセンターで、円滑な実証実験の実施を
ワンストップでサポートしています。

北九州高度産業技術実証ワンストップセンター詳細はこちら →



東田・未来都市プロジェクトについて

北九州市では、デジタル技術を活用した環境・経済・社会の好循環
によるSDGsの加速化、脱炭素社会の実現に向けて、八幡東区
東田地区を中心に、2030年頃の未来社会の先行実現を目指す
「東田・未来都市プロジェクト」を、2022年8月から推進しています。

東田・未来都市プロジェクト詳細はこちら →



【問い合わせ先】

政策局 政策課 担当:〔課長〕高岡、〔係長〕江口
TEL:093-582-2302

資源循環スマートボックス「Rebit BOX」実証事業を北九州市で開始

AI×ポイント還元で循環型社会を推進

株式会社リビットジャパン（本社：福岡県北九州市、代表取締役：成田 詩歩）は、資源循環を促進する次世代型リサイクルボックス「Rebit BOX」の実証事業を、国家戦略特区に指定されている北九州市にて2025年12月1日より開始します。本事業は、AI判別機能やポイント還元システム、GHG削減量の「見える化」などを通じて、市民の利便性向上と企業の社会貢献度の可視化を実現するものです。

特区制度を活用した実証実験の支援について

北九州市国家戦略特区

目的 「世界で一番ビジネスがしやすい環境」の創出

▶ 特区制度における「規制改革提案」や、「実証ワンストップセンターにおける支援」により目的達成を目指す！



背景

従来のリサイクルボックスには、

- 異物混入による再資源化の阻害
- 設置コストの負担

- 利用者意欲の低下
- 社会貢献度の見えづらさ

といった課題がありました。

Rebit BOXはこれらの課題を解決し、官民連携による資源循環型社会の実現を目指します。

「Rebit BOX」の主な特徴

1. AI判別機能

異物混入を防止し、リサイクル品質を確保

2. ポイント還元

投入量に応じて「Rebitポイント」を付与し、楽天・PayPay・dポイント等へ交換可能

3. GHG削減の見える化

投入データをブロックチェーン上でNFT化しGHG削減量を算出、企業のESG報告・CSRに活用可能

4. 広報・広告機能

大型ディスプレイを通じた市政情報や企業広告の発信

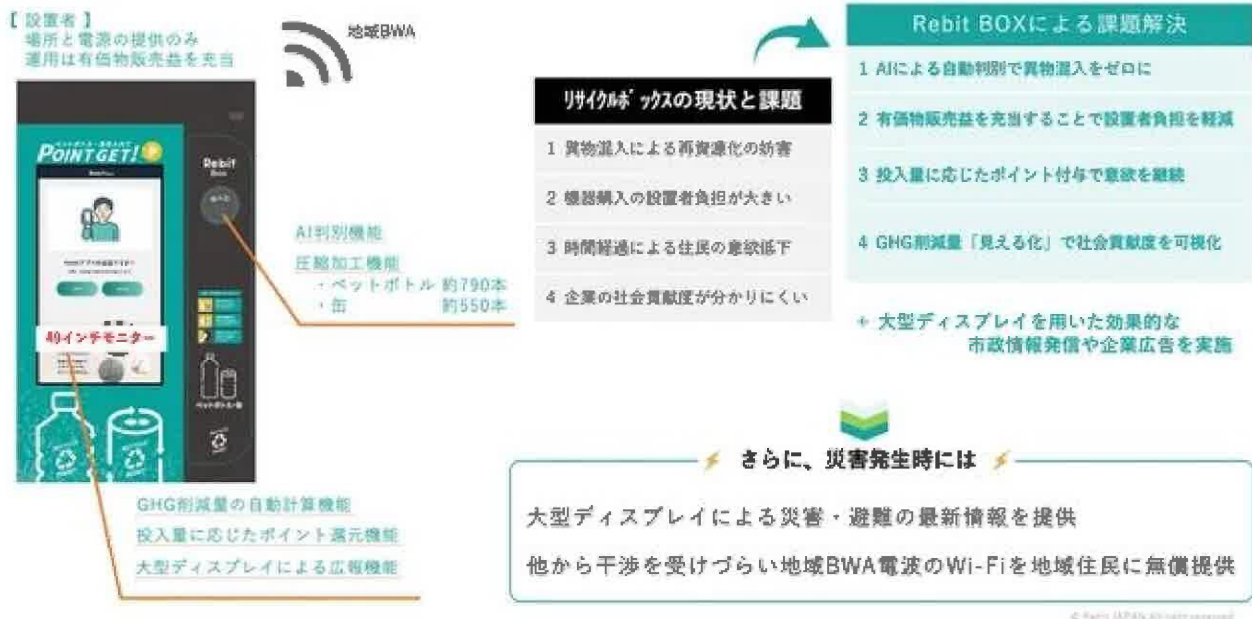
5. 災害対応機能

災害時には地域BWAを利用したフリーWi-Fiの開放、避難情報配信に加えて音声案内で地域の安全を支援

6. 屋外対応設計

商業施設・公共空間など幅広い場所での設置が可能

環境・地域・防災をつなぐAI搭載新インフラ「Rebit BOX」について



実証事業概要

設置開始：2025年12月1日～

設置場所：北九州市内6箇所

- THE OUTLETS KITAKYUSHU
- サンキュードラッグコスパ 相生薬局
- ホームプラザナフコ 八幡東店
- ミクニワールドスタジアム
- タカミヤ環境ミュージアム
- 八幡東区市民センター

対象品目：ペットボトル・アルミ缶・段ボールなど再資源化可能物

今後の展開：2026年4月以降、福岡県を中心に順次拡大予定

実施主体：株式会社リビットジャパン

協力：北九州市、地域企業、一般社団法人北九州ネットワークス（地域BWA提供）

実証実験のスケジュール



実施体制

実施主体：株式会社リビットジャパン 地域BWA：北九州ネットワークス

期待される効果

1. 市民の利便性向上

気軽に取り組みやすいリサイクル体験とポイント還元、自治体や企業とのつながりを強化

2. 資源循環の促進

環境未来都市・北九州市ならではの取り組み

3. サステナブルシティへの変革

ESG・CSRの推進、地域価値の向上

4. 災害時の地域レジリエンス強化

Wi-Fi開放、避難情報配信、音声案内による支援

会社概要

会社名：株式会社リビットジャパン

所在地：福岡県北九州市八幡西区陣原2丁目8-2

代表者：代表取締役 成田 詩歩

事業内容：廃棄物処理、リサイクル、エネルギーに関連するコンサルタント及びソリューション事業

本件に関するお問い合わせ先

株式会社リビットジャパン

担当：新川

電話：093-644-0158

メールアドレス：info@rebit-japan.com

株式会社ビートルマネージメントのプレスリリース一覧

https://prtmes.jp/main/html/searchrlp/company_id/116754



NEW Project Beginning

【全国初】 環境・地域・防災をつなぐ

Rebit Japan



AI搭載新インフラ「Rebit BOX」実装に向けた実証支援



北九州市国家戦略特区 目的：「世界で一番ビジネスがしやすい環境」の創出

特区制度における「規制改革提案」や、「実証ワンストップセンターにおける支援」により目的達成を目指す！

リビットジャパン社（令和7年7月法人設立／北九州市）から実証実験支援の相談

先端技術支援

AI活用

電波活用



ONE STOP
Support Center
for Demonstration Tests

「自動運転」「ドローン」「電波」の
先端技術3分野の実証をワンストップで支援



東田・未来都市プロジェクト
The Higashida Future City Project

社会課題解決に向けた先端技術の実証
新規ビジネスの創出を支援

設置は
場所と電源の提供のみ



地域BWA



AI

適否自動判別

還元ポイント計算

温室効果ガス削減量計算

環境

AI判別で異物混入をゼロに

ペット・缶の販売益で設置者負担を軽減

投入ポイント付与で意欲継続

社会貢献度をGHG削減量で可視化

防災

災害・避難の最新情報を提供

Wi-Fiを地域住民に無償提供

地域

市政情報提供

投入ポイント付与で意欲継続（再掲）

A I 搭載新インフラ「Rebit BOX」への期待

4



- ◇ 環境改善・市民環境力強化 ◇ 温室効果ガス削減量見える化
- ◇ 市政情報発信 ◇ 災害対応
- ◇ 市内スタートアップ企業の新たな挑戦

特区制度等を活用した実証支援の効果

- 資源循環分野における社会課題解決
- 災害発生時の新たなインフラ整備
- 市内スタートアップ企業支援



「稼げるまち」

「彩りあるまち」

「安らぐまち」

つながる実証実験となることを期待



「AI活用推進都市」宣言 第8弾！



【全国初】環境・地域・防災をつなぐ AI搭載新インフラ「Rebit BOX」実装に向けた実証支援

北九州市国家戦略特区



ONE STOP
Support Center
for Demonstration Tests



東田・未来都市プロジェクト
The Higashida Future City Project

Rebit Japan



環境・地域・防災をつなぐAI搭載新インフラ「Rebit BOX」について

2

【設置者】

場所と電源の提供のみ
運用は有価物販売益を充当



AI判別機能

圧縮加工機能

- ・ペットボトル 約790本
- ・缶 約550本

49インチモニター

GHG削減量の自動計算機能

投入量に応じたポイント還元機能

大型ディスプレイによる広報機能

リサイクルボックスの現状と課題

- 1 異物混入による再資源化の妨害
- 2 機器購入の設置者負担が大きい
- 3 時間経過による住民の意欲低下
- 4 企業の社会貢献度が分かりにくい

Rebit BOXによる課題解決

- 1 AIによる自動判別で異物混入をゼロに
- 2 有価物販売益を充当することで設置者負担を軽減
- 3 投入量に応じたポイント付与で意欲を継続
- 4 GHG削減量「見える化」で社会貢献度を可視化

+ 大型ディスプレイを用いた効果的な
市政情報発信や企業広告を実施

⚡ さらに、災害発生時には ⚡

大型ディスプレイによる災害・避難の最新情報を提供

他から干渉を受けづらい地域BWA電波のWi-Fiを地域住民に無償提供



実施体制

実施主体：株式会社リビットジャパン 地域BWA：北九州ネットワークス

BWAとは

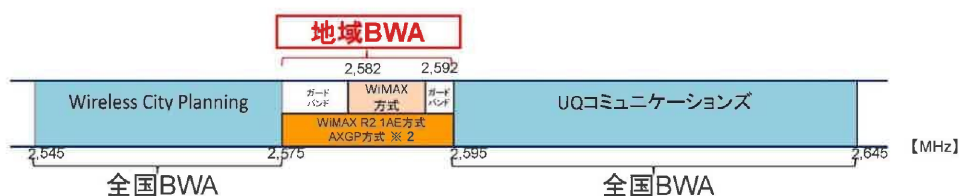
- 無線通信技術として、国際的な標準規格であるWiMAXやAXGPを利用
- 固定光回線並みの高速通信（下り最大220Mbps ※1）が実現可能
- 1つの基地局で広域をカバー可能（半径2～3km）



※1 20MHz幅システム4×4 MIMOを利用した場合

BWA(広帯地域無線アクセス)システムとして、平成19年に以下の2つの区分が制度化。

- **全国BWA:** 日本全国において公衆向け高速データ通信を行うサービス
- **地域BWA:** 市町村においてデジタル・ディバイドの解消、地域の公共サービス向上に資する高速データ通信を行うサービス



※2 国際的な標準化プロジェクトである3GPPによって策定された「TDD-LTE」と互換性のある方式